

2. 資料は第1報と同じくジャパンスの武梁祠画像石の写真を中心に、関係資料として同時代のものとされる孝堂山画像石、朝鮮の楽浪彩篋、塚出土の彩篋、漆画、漢代の陶俑などの写真および図録を用いた。これらから着衣状態の詳細を直接的によみとる一方、文献資料によって個々の衣服がいかなる様式で構成され、着用されたものであるかを検討した。

3. 中国古代の女装はワン・ピース形式とツー・ピース形式に二分される。ワン・ピース形式は深衣の制によるもので、皇后皇太后の祭服や礼服には上衣と下裳の色が異なったものが用いられ、貴族階級には上下同色のものが用いられた。裾と襦のツー・ピース形式は女子の一般的な服装と考えられる。

B-60 中国古代の服制について（第二報）

奈良女子大 相川佳予子

1. 中国古代の衣服形式は男装女装ともに深衣の形式をその基本型として、さまざまな変化型を生み出したものと考えられる。衣服形式の種類および深衣の構成に関してはすでに前回は報告したので、今回は女装を中心として考察をすすめた。